

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人北杜学園

(2) 大学名

仙台青葉学院短期大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-0021

宮城県仙台市青葉区中央四丁目5番3号

(〒984-0022 宮城県仙台市若林区五橋三丁目5番75号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スズキ カズキ) 鈴木 一樹 (平成26年4月)		
学長	(スズキ カズキ) 鈴木 一樹 (平成28年6月)	(タバヤシ コウイチ) 田林 暁一 (令和3年4月)	前任者(鈴木一樹)の任期満了により、令和3年4月1日付で田林暁一が就任(3)
学科長等	(サクラバ ユカリ) 櫻庭 ゆかり (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
言語聴覚学科 短期大学士 (言語聴覚学)	言語聴覚学	3年	40人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 -人	120人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	40	-	40	-	40	-	1.14倍	-	1.09倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	53	(-)	55	(-)	55	(-)					
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	52	(-)	55	(-)	53	(-)					
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	49	(-)	47	(-)	49	(-)					
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	45	(-)	44	(-)	49	(-)					
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.12	-	1.10	-	1.22	-					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	42 [-] (-)	- (-) [-]	41 [-] (-)	- (-) [-]	49 [-] (-)	- (-) [-]	
2年次			- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	41 [-] (-)	- (-) [-]	41 [-] (-)	- (-) [-]	
3年次					- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	41 [-] (-)	- (-) [-]	
4年次							- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	42 [-] (-)	- (-) [-]	82 [-] (-)	- (-) [-]	131 [-] (-)	- (-) [-]	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	45 人	3 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	3 人	0 人	学業不振(3人)
令和4年度	86 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	1 人	0 人	進路変更(他教育機関)(1人)
			令和4年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、経済的困難(1人)
令和5年度	131 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合計		7 人		7 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{45} = \boxed{6.66} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{86} = \boxed{4.65} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{131} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<言語聴覚学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1								1
		英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		英文抄読	2後	1					1			
		基礎英会話	3通	1								1
		歴史と文化	1前	1								1
	人間と社会	現代の社会	1前	1								1
		暮らしの中の法律	1後	1								1
		大学生生活論	1通	1			1					
	人間と科学	情報処理	1後	1								1
		統計学	2後	1								1
		健康スポーツ学 I	2前	1			1					
		健康スポーツ学 II	3通	1			1					1
小計 (13科目)			-	13	0	0	1	0	0	1	0	10
専門教育分野	基礎医学	医学概論	1前	1			1					
		病理学	1前	1								1
		解剖学	1前	1			1					1
		生理学	1後	1			1					
	臨床医学	内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1				1	3			
		小児科学	1後	1								1
		精神医学	2前	1								1
		リハビリテーション医学	2前	1								1
		耳鼻咽喉科学	2後	1								1
	形成外科学	2前	1								1	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	1通	1								1
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1前	1								1
		聴覚系の構造・機能・病態	1前	1				1				
		神経系の構造・機能・病態	1前	1					1			
	心理学	臨床心理学	1後	1								1
		生涯発達心理学	2前	1					2			
		神経心理学	3後	1					1			
		心理測定法	2通	1				1	1			1
		福祉心理学	2後	1					2			
		認知・学習心理学	1前	1								1
	心理学系総論	3後	1				1	1				
	言語学	言語学	1後	1								1
	日本語文法学	3後	1								1	
音声学	音声学	1前	1								1	
	音声表記・分析学	1後	1			1			1		1	
音響学	音響学	1後	1								1	
	聴覚心理学	2通	1				1	1			1	
言語発達学	言語発達学	1後	1								1	
社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	2後	1								1	
	リハビリテーション論	2前	1				1	1				
小計 (31科目)			-	31	0	0	2	0	1	3	0	17
専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	1前	1				1	1			
		言語聴覚障害学診断学	2前	1					1	2		1
		言語聴覚障害学総論	3通	1					1	2		
		言語聴覚障害学臨床応用	3後	1			1		1	1		
	失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	1前	1								1
		高次脳機能障害概論	1後	1							1	
		失語症・高次脳機能障害 I	1後	1							1	
		失語症・高次脳機能障害 II	2通	2							1	
		高次脳機能系総論	3後	1			1					
	言語発達障害学	言語発達障害 I	1後	1							1	
		言語発達障害 II	2通	2							1	
		脳性麻痺・運動発達の障害	1後	1							1	
	学習障害・発達障害	1後	1							1		
	拡大・代替コミュニケーション	2前	1							1		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1								1
		英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		英文抄読	2後	1								1
		基礎英会話	3通	1								1
		歴史と文化	1前	1								2
	人間と社会	現代の社会	1前	1								1
		暮らしの中の法律	1後	1								1
		大学生生活論	1通	1			1					
	人間と科学	情報処理	1後	1								1
		統計学	2後	1								1
		健康スポーツ学 I	2前	1				1				
		健康スポーツ学 II	3通	1				1				1
小計 (13科目)			-	13	0	0	1	0	0	0	0	8
専門教育分野	基礎医学	医学概論	1前	1			1					
		病理学	1前	1								1
		解剖学	1前	1			1					1
		生理学	1後	1			1					
	臨床医学	内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1						2	2	
		小児科学	1後	1								1
		精神医学	2前	1								1
		リハビリテーション医学	2前	1								1
		耳鼻咽喉科学	2後	1								1
	形成外科学	2前	1								1	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	1通	1								1
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1前	1								1
		聴覚系の構造・機能・病態	1前	1						1		
		神経系の構造・機能・病態	1前	1							1	
	心理学	臨床心理学	1後	1								1
		生涯発達心理学	2前	1						1	1	
		神経心理学	3後	1							1	
		心理測定法	2通	1				1	1			1
		福祉心理学	2後	1					1	1		
		認知・学習心理学	1前	1								1
	心理学系総論	3後	1						1	1		
	言語学	言語学	1後	1								1
	日本語文法学	3後	1								1	
音声学	音声学	1前	1								1	
	音声表記・分析学	1後	1			1			1		1	
音響学	音響学	1後	1								2	
	聴覚心理学	2通	1					1	1		1	
言語発達学	言語発達学	1後	1								1	
社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	2後	1								1	
	リハビリテーション論	2前	1					1	1			
小計 (31科目)			-	31	0	0	2	0	2	2	0	17
専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	1前	1					1	1		
		言語聴覚障害学診断学	2前	1						2	1	
		言語聴覚障害学総論	3通	1						2	1	
		言語聴覚障害学臨床応用	3後	1			1			1	1	
	失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	1前	1								1
		高次脳機能障害概論	1後	1							1	
		失語症・高次脳機能障害 I	1後	1							1	
		失語症・高次脳機能障害 II	2通	2							1	
		高次脳機能系総論	3後	1			1					
	言語発達障害学	言語発達障害 I	1後	1							1	
		言語発達障害 II	2通	2							1	
		脳性麻痺・運動発達の障害	1後	1							1	
	学習障害・発達障害	1後	1							1		
	拡大・代替コミュニケーション	2前	1						1		1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	発声・発語・嚥下障害学	音声障害	2前	1			1					
		器質性・機能性構音障害	2前	1					1		1	
		運動障害性構音障害Ⅰ	1後	1			1					
		運動障害性構音障害Ⅱ	2通	2			1					
		吃音概論	2前	1							1	
		摂食嚥下障害Ⅰ	1後	1						1		
	摂食嚥下障害Ⅱ	2通	2						1			
	聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	1前	1					1			1
		聴能・発語訓練演習	2後	1						1		1
		聴力検査	1後	1					1			
		視覚聴覚二重障害・重複障害	1後	1								1
		補聴器・人工内耳	2前	1					1			1
		聴覚障害学総論	3後	1					1			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	1後	1			1		1	3		
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	2後	3			1		1	3		
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）		3通	4			1		1	3			
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）		3通	4			1		1	3			
小計（32科目）	-	44	0	0	1	0	1	3	0	8		
専門独自科目	自然科学概論	1前	1						1			
	生命科学の基礎	3後	1					1	1		1	
	口腔顔面の感覚・運動障害概論	3後	1			1			1			
	地域リハビリテーション論	3通	1			1		1	1			
	認知症のリハビリテーション	3通	1					2			1	
	神経の診かた	2後	1			1		1	1			
	動作分析の基礎	2後	1			1			2			
	疾病論	3後	1					1	2			
	口腔衛生論	2後		1					2		1	
	リハビリテーション栄養学	3後		1		1			1			
	保険診療・介護保険制度	2後		1		1		1	2		1	
	視覚言語論	3後		1							1	
	補綴・補装具論	3通		1		1		1	2		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅰ	3通			2	2		1	3		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅱ	3通			2	2		1	3		1	
小計（15科目）	-	8	5	4	2	0	1	3	0	6		
合計（91科目）	-	96	5	4	2	0	1	3	0	39		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は98単位以上とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目13単位、「専門教育分野」から必修科目83単位、選択科目2単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間））												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	発声・発語・嚥下障害学	音声障害	2前	1			1					
		器質性・機能性構音障害	2前	1						1		1
		運動障害性構音障害Ⅰ	1後	1			1					
		運動障害性構音障害Ⅱ	2通	2			1					
		吃音概論	2前	1							1	
		摂食嚥下障害Ⅰ	1後	1							1	
	摂食嚥下障害Ⅱ	2通	2							1		
	聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	1前	1					1			1
		聴能・発語訓練演習	2後	1						1		1
		聴力検査	1後	1					1			
		視覚聴覚二重障害・重複障害	1後	1								1
		補聴器・人工内耳	2前	1					1			1
		聴覚障害学総論	3後	1					1			
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	1後	1			1			2	2	
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	2後	3			1			2	2	
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）		3通	4			1			2	2		
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）		3通	4			1			2	2		
小計（32科目）	-	44	0	0	1	0	2	2	0	8		
専門独自科目	自然科学概論	1前	1							1		
	生命科学の基礎	3後	1					1	1		1	
	口腔顔面の感覚・運動障害概論	3後	1			1			1			
	地域リハビリテーション論	3通	1			1		1	2			
	認知症のリハビリテーション	3通	1					2	1		1	
	神経の診かた	2後	1			1		1	1			
	動作分析の基礎	2後	1			1			1	1		
	疾病論	3後	1					1	2			
	口腔衛生論	2後		1					1	1		
	リハビリテーション栄養学	3後		1		1			1		1	
	保険診療・介護保険制度	2後		1		1		1	2	1		
	視覚言語論	3後		1							1	
	補綴・補装具論	3通		1		1		1	2	1		
	言語聴覚学特別講義Ⅰ	3通			2	2		1	3		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅱ	3通			2	2		1	3		1	
小計（15科目）	-	8	5	4	2	0	2	2	0	6		
合計（91科目）	-	96	5	4	2	0	2	2	0	36		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は98単位以上とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目13単位、「専門教育分野」から必修科目83単位、選択科目2単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間））												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1								1
		英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		英文抄読	2後	1					1			
		基礎英会話	3通	1								1
	歴史と文化	1前	1								2	
	人間と社会	現代の社会	1前	1								1
		暮らしの中の法律	1後	1								1
		大学生生活論	1通	1			1					
	人間と科学	情報処理	1後	1								1
		統計学	2後	1								1
		健康スポーツ学 I	2前	1			1					
	健康スポーツ学 II	3通	1			1					1	
小計 (13科目)			-	13	0	0	1	0	0	1	0	9
専門教育分野	基礎医学	医学概論	1前	1			1					1
		病理学	1前	1								1
		解剖学	1前	1			1					1
		生理学	1後	1			1					1
	臨床医学	内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1				1	3			
		小児科学	1後	1								1
		精神医学	2前	1								1
		リハビリテーション医学	2前	1								1
		耳鼻咽喉科学	2後	1								1
	形成外科学	2前	1								1	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	1通	1								1
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発話系の構造・機能・病態	1前	1								1
		聴覚系の構造・機能・病態	1前	1				1				
		神経系の構造・機能・病態	1前	1					1			
	心理学	臨床心理学	1後	1								1
		生涯発達心理学	2前	1					2			
		神経心理学	3後	1					1			1
		心理測定法	2通	1				1	1			1
		福祉心理学	2後	1					2			
		認知・学習心理学	1前	1								1
	心理学系総論	3後	1				1	1				
	言語学	言語学	1後	1								1
		日本語文法学	3後	1								1
	音声学	音声学	1前	1								1
		音声表記・分析学	1後	1			1			1		1
	音響学	音響学	1後	1								2
聴覚心理学		2通	1				1	1			1	
言語発達学	言語発達学	1後	1								1	
社会福祉・教育	社会保険制度・関係法規	2後	1								1	
	リハビリテーション論	2前	1				1	1				
小計 (31科目)			-	31	0	0	2	0	1	3	0	17
専門展開科目	言語聴覚障害学	言語聴覚障害学の基礎	1前	1				1	1			
		言語聴覚障害学診断学	2前	1					1	2		1
		言語聴覚障害学総論	3通	1					1	2		
		言語聴覚障害学臨床応用	3後	1			1		1	1		
	失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	1前	1								1
		高次脳機能障害概論	1後	1						1		
		失語症・高次脳機能障害 I	1後	1						1		
		失語症・高次脳機能障害 II	2通	2						1		
		高次脳機能系総論	3後	1			1					
	言語発達障害学	言語発達障害 I	1後	1						1		
		言語発達障害 II	2通	2						1		
		脳性麻痺・運動発達障害	1後	1						1		1
		学習障害・発達障害	1後	1						1		1
拡大・代替コミュニケーション	2前	1						1		1		

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1								1
		英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		英文抄読	2後	1						1		
		基礎英会話	3通	1								1
	歴史と文化	1前	1								2	
	人間と社会	現代の社会	1前	1								1
		暮らしの中の法律	1後	1								1
		大学生生活論	1通	1			1					
	人間と科学	情報処理	1後	1								1
		統計学	2後	1								1
		健康スポーツ学 I	2前	1			1					
	健康スポーツ学 II	3通	1			1					1	
小計 (13科目)			-	13	0	0	1	0	0	1	0	10
専門教育分野	基礎医学	医学概論	1前	1			1					1
		病理学	1前	1								1
		解剖学	1前	1			1					1
		生理学	1後	1			1					1
	臨床医学	内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1				1	3			
		小児科学	1後	1								1
		精神医学	2前	1								1
		リハビリテーション医学	2前	1								1
		耳鼻咽喉科学	2後	1								1
	形成外科学	2前	1								1	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	1通	1								1
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発話系の構造・機能・病態	1前	1								1
		聴覚系の構造・機能・病態	1前	1				1				
		神経系の構造・機能・病態	1前	1					1			
	心理学	臨床心理学	1後	1								1
		生涯発達心理学	2前	1					2			
		神経心理学	3後	1					1			1
		心理測定法	2通	1				1	1			1
		福祉心理学	2後	1					2			
		認知・学習心理学	1前	1								1
	心理学系総論	3後	1				1	1				
	言語学	言語学	1後	1								1
		日本語文法学	3後	1								1
	音声学	音声学	1前	1								1
		音声表記・分析学	1後	1			1			1		1
	音響学	音響学	1後	1								1
聴覚心理学		2通	1				1	1			1	
言語発達学	言語発達学	1後	1								1	
社会福祉・教育	社会保険制度・関係法規	2後	1								1	
	リハビリテーション論	2前	1					1	1			
小計 (31科目)			-	31	0	0	2	0	1	3	0	17
専門展開科目	言語聴覚障害学	言語聴覚障害学の基礎	1前	1				1	1			
		言語聴覚障害学診断学	2前	1					1	2		1
		言語聴覚障害学総論	3通	1					1	2		
		言語聴覚障害学臨床応用	3後	1			1		1	1		
	失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	1前	1								1
		高次脳機能障害概論	1後	1						1		
		失語症・高次脳機能障害 I	1後	1						1		
		失語症・高次脳機能障害 II	2通	2						1		
		高次脳機能系総論	3後	1			1					
	言語発達障害学	言語発達障害 I	1後	1						1		
		言語発達障害 II	2通	2						1		
		脳性麻痺・運動発達障害	1後	1						1		1
		学習障害・発達障害	1後	1						1		1
拡大・代替コミュニケーション	2前	1						1		1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	発声・発語・嚥下障害学	音声障害	2前	1			1					
		器質性・機能性構音障害	2前	1					1		1	
		運動障害性構音障害Ⅰ	1後	1			1					
		運動障害性構音障害Ⅱ	2通	2			1					
		吃音概論	2前	1								1
		摂食嚥下障害Ⅰ	1後	1						1		
	摂食嚥下障害Ⅱ	2通	2						1			
	聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	1前	1					1			1
		聴能・発語訓練演習	2後	1						1		1
		聴力検査	1後	1					1			
		視覚聴覚二重障害・重複障害	1後	1								1
		補聴器・人工内耳	2前	1					1			1
		聴覚障害学総論	3後	1					1			
	音と聴力	3後	1					1				
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	1後	1			1		1	3		
臨床実習Ⅱ（評価実習）		2後	3			1		1	3			
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）		3通	4			1		1	3			
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）		3通	4			1		1	3			
小計（32科目）	-	44	0	0	1	0	1	3	0	8		
専門独自科目	自然科学概論	1前	1					1				
	生命科学の基礎	3後	1					1	1		1	
	口腔顔面感覚・運動障害概論	3後	1			1			1			
	地域リハビリテーション論	3通	1			1		1	1			
	認知症のリハビリテーション	3通	1						2		1	
	神経の診かた	2後	1			1		1	1			
	動作分析の基礎	2後	1			1			2			
	疾病論	3後	1					1	2			
	口腔衛生論	2後		1					2		1	
	リハビリテーション実習学	3後	1			1		1	1			
	保険診療・介護保険制度	2後	1			1		1	2		1	
	視覚言語論	3後	1								1	
	補綴・補装具論	3通	1			1		1	2		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅰ	3通			2	2		1	3		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅱ	3通			2	2		1	3		1	
小計（15科目）	-	8	5	4	2	0	1	3	0	6		
合計（91科目）	-	96	5	4	2	0	1	3	0	37		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は98単位以上とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目13単位、「専門教育分野」から必修科目83単位、選択科目2単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位（年間）)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	発声・発語・嚥下障害学	音声障害	2前	1			1					
		器質性・機能性構音障害	2前	1						1	1	
		運動障害性構音障害Ⅰ	1後	1			1					
		運動障害性構音障害Ⅱ	2通	2			1					
		吃音概論	2前	1								1
		摂食嚥下障害Ⅰ	1後	1						1		
	摂食嚥下障害Ⅱ	2通	2						1			
	聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	1前	1					1			1
		聴能・発語訓練演習	2後	1						1		1
		聴力検査	1後	1					1			
		視覚聴覚二重障害・重複障害	1後	1								1
		補聴器・人工内耳	2前	1					1			1
		聴覚障害学総論	3後	1					1			
	音と聴力	3後	1					1				
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	1後	1			1		1	3		
臨床実習Ⅱ（評価実習）		2後	3			1		1	3			
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）		3通	4			1		1	3			
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）		3通	4			1		1	3			
小計（32科目）	-	44	0	0	1	0	1	3	0	8		
専門独自科目	自然科学概論	1前	1					1				
	生命科学の基礎	3後	1					1	1		1	
	口腔顔面感覚・運動障害概論	3後	1			1			1			
	地域リハビリテーション論	3通	1			1		1	1			
	認知症のリハビリテーション	3通	1							2	1	
	神経の診かた	2後	1			1		1	1			
	動作分析の基礎	2後	1			1			2			
	疾病論	3後	1					1	2			
	口腔衛生論	2後		1					2		1	
	リハビリテーション実習学	3後	1			1		1	1			
	保険診療・介護保険制度	2後	1			1		1	2		1	
	視覚言語論	3後	1								1	
	補綴・補装具論	3通	1			1		1	2		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅰ	3通			2	2		1	3		1	
	言語聴覚学特別講義Ⅱ	3通			2	2		1	3		1	
小計（15科目）	-	8	5	4	2	0	1	3	0	6		
合計（91科目）	-	96	5	4	2	0	1	3	0	39		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件は98単位以上とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目13単位、「専門教育分野」から必修科目83単位、選択科目2単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位（年間）)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・より教育効果を高めるため、「歴史と文化」を「兼任1」から「兼任2」のオムニバスに変更

【令和4年度】

- ・「英語Ⅱ」の担当教員を「英語Ⅰ」と同じ兼任教員に変更したことによる小計及び合計数変更
- ・より教育効果を高めるため、「音響学」を「兼任1」から「兼任2」のオムニバスに変更

【令和5年度】

- ・助教1名が産休・育休により、「英文抄読」以外の本年度の担当科目は他の専任教員（講師）が担当。これに伴い小計及び合計数変更
- ・「英文抄読」の担当教員を、産休・育休の「助教1」から、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」と同じ兼任教員に変更。これに伴い小計変更
- ・担当教員変更により、「健康スポーツ学Ⅱ」の教員配置を、「教授1」「兼任1」から「教授1」に変更。これに伴い小計及び合計数変更

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
84 科目	5 科目	2 科目	91 科目	84 科目 [0]	5 科目 [0]	2 科目 [0]	91 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{91} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用 体育館敷地 (3,318.36 ㎡)・課外活動施設敷 地(6,383.47㎡) ・宮床運動場 (2,874.00㎡)・栗生 運動場(621.59㎡) 仙台医療福祉専門学 校・仙台大原簿記情報 公務員専門学校・仙台 工科専門学校・仙台デ ザイン専門学校(面積 基準なし) 宮床運動場及び栗生運 動場は校舎敷地と別地 (宮床運動場:車35~ 45分・19km、栗生運 動場:車10~20分・ 10km) 新校舎建設のため校舎 敷地(専用)面積増加 及び校舎(体育館)敷 地を運動場用地に一部 用途変更(5)			
	校 舎 敷 地	8,137.72㎡ 7,160.87㎡	9,701.83㎡ 10,323.42㎡	1,312.53㎡	19,152.08㎡ 18,796.82㎡				
	運 動 場 用 地	0㎡	3,495.59㎡ 2,874.00㎡	0㎡	3,495.59㎡ 2,874.00㎡				
	小 計	8,137.72㎡ 7,160.87㎡	13,197.42㎡	1,312.53㎡	22,647.67㎡ 21,670.82㎡				
	そ の 他	0㎡	156.00㎡	0㎡	156.00㎡				
	合 計	8,137.72㎡ 7,160.87㎡	13,353.42㎡	1,312.53㎡	22,803.67㎡ 21,826.82㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	新校舎建設のため校舎 (専用)面積増加 (5)			
		29,927.94㎡ 24,926.11㎡ (24,926.11㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	29,927.94㎡ 24,926.11㎡ (24,926.11㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 3室	演 習 室 1室	実験実習室 3室	情報処理学習施設 2室 (補助職員 一人)	語学学習施設 1室 (補助職員 一人)	一部他学科と共用		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		一部他学科と共用		
		言語聴覚学科			6 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	短期大学全体での共用分 図書34,32832-839 〔2,426〕-〔2,045〕冊、 雑誌103冊〔11〕 -〔14〕種、電子ジャー ナル1〔1〕種、視聴覚資料 823点 購読形態変更に伴い、電 子ジャーナル1減(3) 図書の充実による増、雑 誌の購読見直しによる 減、電子含む視聴覚資料 の数に変更(5)	
	言語聴覚学科	1,538〔80〕 (1,238〔50〕)	13〔0〕 (13〔0〕)	1〔0〕 2〔0〕 (1〔0〕) -2〔0〕	203 (173)	300 (250)	15 (15)		
	計	1,538〔80〕 (1,238〔50〕)	13〔0〕 (13〔0〕)	1〔0〕 2〔0〕 (1〔0〕) -2〔0〕	203 (173)	300 (250)	15 (15)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
		148.37㎡		42席	11,000冊				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			短期大学全体 専門学校との共用		
		1,542.13㎡		該当なし					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は短期大 学全体
		教員1人当り研究費等	200千円	200千円	図書購入費	600千円	600千円	600千円	
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	42,700千円	5,000千円	5,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,650千円	第2年次 1,400千円	第3年次 1,400千円	第4年次 -千円	第5年次 -千円	第6年次 -千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	仙台青葉学院短期大学										平均入学定員超過率7倍以下の学科数	2	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率7倍以下の学科数	3	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍		倍	倍	年度	年度							
看護学科	3	90	-	270	短期大学士(看護学)	1.01	-	1.00	-	-	平成21	宮城県仙台市若林区五橋三丁目5番75号						
こども学科	2	100	-	200	短期大学士(こども学)	0.98	-	0.97	-	-	平成25	同上						
リハビリテーション学科	3	110	-	340		0.75		0.69										
理学療法専攻	3	80	-	250	短期大学士(理学療法学)	0.82	-	0.77	-	-	平成25	宮城県仙台市太白区長町四丁目3番55号	令和4年度入学定員減(△10人)					
作業療法専攻	3	30	-	90	短期大学士(作業療法学)	0.57	-	0.47	-	-	平成25	同上						
歯科衛生学科	3	70	-	210	短期大学士(歯科衛生学)	1.04	-	1.00	-	-	平成26	宮城県仙台市青葉区中央四丁目5番3号						
栄養学科	2	75	-	155	短期大学士(栄養学)	0.98	-	0.96	-	-	平成27	同上	令和5年度入学定員減(△5人)					
現代英語学科	2	35	-	75	短期大学士(英語)	0.58	-	0.57	-	-	令和元	同上	令和5年度入学定員減(△5人)					
言語聴覚学科	3	40	-	120	短期大学士(言語聴覚学)	1.14	-	1.09	-	-	令和3	同上						
ビジネスキャリア学科	2	155	-	310	短期大学士(ビジネスキャリア学)	1.03	-	1.04	-	-	平成21	宮城県仙台市青葉区中央四丁目9番30号						
観光ビジネス学科	2	50	-	130	短期大学士(観光ビジネス学)	0.69	-	0.63	-	-	平成28	同上	令和5年度入学定員減(△30人)					
救急救命学科	2	40	-	40	短期大学士(救急救命学)	1.17	-	1.17	-	-	令和5	同上						
短期大学全体	2 3	455 310	-	1850	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<言語聴覚学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専	教授	櫻庭 ゆかり (57) <令和3年4月> 博士(歯学)	櫻庭 ゆかり (58) <令和3年4月> 博士(歯学)	櫻庭 ゆかり (59) <令和3年4月> 博士(歯学)	櫻庭 ゆかり (60) <令和3年4月> 博士(歯学)
		大学生生活論 健康スポーツ学Ⅰ 健康スポーツ学Ⅱ※ 解剖学※ 音声表記・分析学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 高次脳機能系総論 音声障害 運動障害性構音障害Ⅰ 運動障害性構音障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 動作分析の基礎※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	大学生生活論 健康スポーツ学Ⅰ 健康スポーツ学Ⅱ※ 解剖学※ 音声表記・分析学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 高次脳機能系総論 音声障害 運動障害性構音障害Ⅰ 運動障害性構音障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 動作分析の基礎※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	大学生生活論 健康スポーツ学Ⅰ 健康スポーツ学Ⅱ※ 解剖学※ 音声表記・分析学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 高次脳機能系総論 音声障害 運動障害性構音障害Ⅰ 運動障害性構音障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 動作分析の基礎※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	大学生生活論 健康スポーツ学Ⅰ 健康スポーツ学Ⅱ※ 解剖学※ 音声表記・分析学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 高次脳機能系総論 音声障害 運動障害性構音障害Ⅰ 運動障害性構音障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 動作分析の基礎※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
		専	教授	鈴木 裕一 (73) <令和3年4月> 医学博士	鈴木 裕一 (74) <令和3年4月> 医学博士
専	教授	渡邊 弘人 (42) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	渡邊 弘人 (43) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	渡邊 弘人 (44) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	渡邊 弘人 (45) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)
専	講師	臨床神経学※ 聴覚系の構造・機能・病態 心理測定法※ 心理学系総論※ 聴覚心理学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 成人・小児の聴覚障害※ 聴力検査 補聴器・人工内耳※ 聴覚障害学総論 音と聴力 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 生命科学の基礎※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 疾病論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	臨床神経学※ 聴覚系の構造・機能・病態 心理測定法※ 心理学系総論※ 聴覚心理学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 成人・小児の聴覚障害※ 聴力検査 補聴器・人工内耳※ 聴覚障害学総論 音と聴力 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 生命科学の基礎※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 疾病論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	臨床神経学※ 聴覚系の構造・機能・病態 心理測定法※ 心理学系総論※ 聴覚心理学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 成人・小児の聴覚障害※ 聴力検査 補聴器・人工内耳※ 聴覚障害学総論 音と聴力 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 生命科学の基礎※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 疾病論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	臨床神経学※ 聴覚系の構造・機能・病態 心理測定法※ 心理学系総論※ 聴覚心理学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 成人・小児の聴覚障害※ 聴力検査 補聴器・人工内耳※ 聴覚障害学総論 音と聴力 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 生命科学の基礎※ 地域リハビリテーション論※ 神経の診かた※ 疾病論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
											中川 大介 (50) <令和5年4月> 学士(経済学)
							専 講師	臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 言語聴覚障害学※ 言語聴覚障害学総論※ 拡大・代替コミュニケーション※ 摂食嚥下障害 I 摂食嚥下障害 II 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション※ 認知症のリハビリテーション※ 動作分析の基礎※ 口腔衛生論※ リハビリテーション栄養学※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義 I ※ 言語聴覚学特別講義 II ※			
		鈴木 将太 (32) <令和3年4月> 学士(工学)			鈴木 将太 (33) <令和3年4月> 学士(工学)			鈴木 将太 (34) <令和3年4月> 学士(工学)			鈴木 将太 (35) <令和3年4月> 学士(工学)
専	助教	臨床神経学※ 神経系の構造・機能・病態 神経心理学 心理測定法※ 聴覚心理学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 失語症概論 高次脳機能障害概論 失語症・高次脳機能障害 I 失語症・高次脳機能障害 II 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 自然科学概論 認知症のリハビリテーション※ 神経の診かた※ 疾病論※ 言語聴覚学特別講義 I ※ 言語聴覚学特別講義 II ※	専	助教	臨床神経学※ 神経系の構造・機能・病態 神経心理学 心理測定法※ 聴覚心理学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 失語症概論 高次脳機能障害概論 失語症・高次脳機能障害 I 失語症・高次脳機能障害 II 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 自然科学概論 認知症のリハビリテーション※ 神経の診かた※ 疾病論※ 言語聴覚学特別講義 I ※ 言語聴覚学特別講義 II ※	専	助教	臨床神経学※ 神経系の構造・機能・病態 神経心理学 心理測定法※ 聴覚心理学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 失語症概論 高次脳機能障害概論 失語症・高次脳機能障害 I 失語症・高次脳機能障害 II 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 自然科学概論 認知症のリハビリテーション※ 神経の診かた※ 疾病論※ 言語聴覚学特別講義 I ※ 言語聴覚学特別講義 II ※	専	助教	臨床神経学※ 神経系の構造・機能・病態 神経心理学 心理測定法※ 聴覚心理学※ 言語聴覚障害学臨床応用※ 失語症概論 高次脳機能障害概論 失語症・高次脳機能障害 I 失語症・高次脳機能障害 II 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 自然科学概論 認知症のリハビリテーション※ 神経の診かた※ 疾病論※ 言語聴覚学特別講義 I ※ 言語聴覚学特別講義 II ※
		木村 有希 (32) <令和3年4月> 学士(人間文化学)			木村 有希 (33) <令和3年4月> 学士(人間文化学)			木村 有希 (34) <令和3年4月> 学士(人間文化学)			木村 有希 (35) <令和3年4月> 学士(人間文化学)
専	助教	臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 心理学系総論※ 音声表記・分析学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語発達障害 I 言語発達障害 II 脳性麻痺・運動発達の障害※ 学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 聴能・発語訓練演習※ 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 生命科学の基礎※ 動作分析の基礎※ 疾病論※	専	助教	臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 心理学系総論※ 音声表記・分析学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語発達障害 I 言語発達障害 II 脳性麻痺・運動発達の障害※ 学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 聴能・発語訓練演習※ 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 生命科学の基礎※ 動作分析の基礎※ 疾病論※	専	助教	臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 心理学系総論※ 音声表記・分析学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語発達障害 I 言語発達障害 II 脳性麻痺・運動発達の障害※ 学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 聴能・発語訓練演習※ 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 生命科学の基礎※ 動作分析の基礎※ 疾病論※	専	助教	臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 心理学系総論※ 音声表記・分析学※ リハビリテーション論※ 言語聴覚障害学の基礎※ 言語聴覚障害学診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 言語発達障害 I 言語発達障害 II 脳性麻痺・運動発達の障害※ 学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 聴能・発語訓練演習※ 臨床実習 I (見学実習) 臨床実習 II (評価実習) 臨床実習 III (総合実習前期) 臨床実習 IV (総合実習後期) 生命科学の基礎※ 動作分析の基礎※ 疾病論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	口腔衛生論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
専	助教	江畑 綾 (38) <令和4年4月> Bachelor of Science (米国)
専	助教	英文抄読 臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 言語聴覚障害診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 拡大・代替コミュニケーション※ 摂食嚥下障害Ⅰ 摂食嚥下障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 認知症のリハビリテーション※ 動作分析の基礎※ 口腔衛生論※ リハビリテーション栄養学※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
兼任	講師	江畑 綾 (38) <令和3年4月> Bachelor of Science (米国)
		摂食嚥下障害Ⅰ 臨床実習Ⅰ(見学実習)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	口腔衛生論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
専	助教	江畑 綾 (39) <令和4年4月> Bachelor of Science (米国)
専	助教	英文抄読 臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 言語聴覚障害診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 拡大・代替コミュニケーション※ 摂食嚥下障害Ⅰ 摂食嚥下障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 認知症のリハビリテーション※ 動作分析の基礎※ 口腔衛生論※ リハビリテーション栄養学※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
兼任	講師	江畑 綾 (39) <令和3年4月> Bachelor of Science (米国)
		摂食嚥下障害Ⅰ 臨床実習Ⅰ(見学実習)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	口腔衛生論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
専	助教	江畑 綾 (40) <令和4年4月> Bachelor of Science (米国)
専	助教	英文抄読 臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 言語聴覚障害診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 拡大・代替コミュニケーション※ 摂食嚥下障害Ⅰ 摂食嚥下障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 認知症のリハビリテーション※ 動作分析の基礎※ 口腔衛生論※ リハビリテーション栄養学※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	口腔衛生論※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
専	助教	江畑 綾 (41) <令和4年4月> Bachelor of Science (米国)
専	助教	英文抄読 臨床神経学※ 生涯発達心理学※ 福祉心理学※ 言語聴覚障害診断学※ 言語聴覚障害学総論※ 拡大・代替コミュニケーション※ 摂食嚥下障害Ⅰ 摂食嚥下障害Ⅱ 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習前期) 臨床実習Ⅳ(総合実習後期) 口腔顔面の感覚・運動障害総論※ 地域リハビリテーション論※ 認知症のリハビリテーション※ 動作分析の基礎※ 口腔衛生論※ リハビリテーション栄養学※ 保険診療・介護保険制度※ 補綴・補装具論※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	鈴木 一樹 (50) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	暮らしの中の法律
兼任	教授	SMITH ANTHONY FREDERICK ARTHUR (69) <令和3年4月> 文学修士	英語Ⅱ
兼任	教授	小野寺 健 (58) <令和3年4月> 歯学博士	解剖学※ 臨床歯科医学・口腔外科学
兼任	教授	JONES DOMINIC MICHAEL DONALD (50) <令和5年4月> MASTER OF EDUCATION (Applied Linguistics) (英国)	基礎英会話
兼任	准教授	山口 志津枝 (46) <令和3年4月> 修士(学術)	補綴・補装具論※
兼任	講師	中曽根 裕 (42) <令和5年4月> 修士(スポーツ科学)	健康スポーツ学Ⅱ※
兼任	助教	花淵 静 (41) <令和4年4月> 修士(口腔科学)	口腔衛生論※
兼任	講師	吉田 理 (50) <令和3年4月> 修士(学術)	日本語表現法
兼任	講師	近江 貞子 (64) <令和3年4月> 英語英文学修士	英語Ⅰ
兼任	講師	吉沢 康太 (34) <令和3年4月> 修士(文学)	歴史と文化
兼任	講師	小野寺 修 (48) <令和3年4月> 修士(社会学)	現代の社会
兼任	講師	杉崎 新一 (56) <令和3年4月> 経済学学士	情報処理
兼任	講師	鈴木 寿則 (46) <令和4年4月> 博士(医学)	統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 一樹 (51) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	暮らしの中の法律
兼任	教授	SMITH ANTHONY FREDERICK ARTHUR (70) <令和3年4月> 文学修士	英語Ⅱ
兼任	教授	小野寺 健 (59) <令和3年4月> 歯学博士	解剖学※ 臨床歯科医学・口腔外科学
兼任	教授	JONES DOMINIC MICHAEL DONALD (51) <令和5年4月> MASTER OF EDUCATION (Applied Linguistics) (英国)	基礎英会話
兼任	准教授	山口 志津枝 (47) <令和3年4月> 修士(学術)	補綴・補装具論※
兼任	講師	中曽根 裕 (43) <令和5年4月> 修士(スポーツ科学)	健康スポーツ学Ⅱ※
兼任	講師	花淵 静 (42) <令和3年4月> 修士(口腔科学)	口腔衛生論※
兼任	講師	吉田 理 (51) <令和3年4月> 修士(学術)	日本語表現法 現代の社会
兼任	講師	近江 貞子 (65) <令和3年4月> 英語英文学修士	英語Ⅰ
兼任	講師	徳田 幸雄 (51) <令和3年4月> 博士(文学)	歴史と文化※
兼任	講師	丸藤 准二 (63) <令和3年4月> 博士(経済学)	
兼任	講師	杉崎 新一 (57) <令和3年4月> 経済学学士	情報処理
兼任	講師	鈴木 寿則 (47) <令和4年4月> 博士(医学)	統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 一樹 (52) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	暮らしの中の法律
兼任	教授	小野寺 健 (60) <令和3年4月> 歯学博士	解剖学※ 臨床歯科医学・口腔外科学
兼任	教授	JONES DOMINIC MICHAEL DONALD (52) <令和5年4月> MASTER OF EDUCATION (Applied Linguistics) (英国)	基礎英会話
兼任	准教授	山口 志津枝 (48) <令和5年4月> 修士(学術)	補綴・補装具論※
兼任	講師	中曽根 裕 (44) <令和5年4月> 修士(スポーツ科学)	健康スポーツ学Ⅱ※
兼任	講師	花淵 静 (43) <令和4年4月> 修士(口腔科学)	口腔衛生論※
兼任	講師	吉田 理 (52) <令和3年4月> 修士(学術)	日本語表現法 現代の社会
兼任	講師	近江 貞子 (66) <令和3年4月> 英語英文学修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	徳田 幸雄 (52) <令和3年4月> 博士(文学)	歴史と文化※
兼任	講師	丸藤 准二 (64) <令和3年4月> 博士(経済学)	
兼任	講師	佐々 順子 (58) <令和4年4月> 高等学校	情報処理
兼任	講師	鈴木 寿則 (48) <令和4年4月> 博士(医学)	統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	鈴木 一樹 (53) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	暮らしの中の法律
兼任	教授	小野寺 健 (61) <令和3年4月> 歯学博士	解剖学※ 臨床歯科医学・口腔外科学
兼任	講師	相田 明子 (51) <令和5年4月> 修士※(文学)	基礎英会話
兼任	助教	高橋 慧 (31) <令和5年4月> 修士(環境情報学)	補綴・補装具論※
兼任	講師	花淵 静 (44) <令和4年4月> 修士(口腔科学)	口腔衛生論※
兼任	講師	吉田 理 (53) <令和3年4月> 修士(学術)	日本語表現法 現代の社会
兼任	講師	近江 貞子 (67) <令和3年4月> 英語英文学修士	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英文抄読
兼任	講師	徳田 幸雄 (53) <令和3年4月> 博士(文学)	歴史と文化※
兼任	講師	丸藤 准二 (65) <令和3年4月> 博士(経済学)	
兼任	講師	佐々 順子 (59) <令和4年4月> 高等学校	情報処理
兼任	講師	鈴木 寿則 (49) <令和4年4月> 博士(医学)	統計学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三木 康宏 (49) <令和3年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	千葉 良 (84) <令和3年4月> 医学博士
		小児科学
兼任	講師	菊地 史子 (62) <令和4年4月> 博士(障害科学)
		精神医学
兼任	講師	水尻 強志 (59) <令和4年4月> 学士(医学)
		リハビリテーション医学
兼任	講師	小倉 正樹 (49) <令和4年4月> 博士(医学) 文学修士
		耳鼻咽喉科学
兼任	講師	館 正弘 (62) <令和4年4月> 医学博士
		形成外科学
兼任	講師	朴澤 孝治 (63) <令和3年4月> 医学博士
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態
兼任	講師	真覚 健 (61) <令和3年4月> 文学修士
		臨床心理学 認知・学習心理学
兼任	講師	田島 裕之 (54) <令和4年4月> 文学修士※
		心理測定法※
兼任	講師	小泉 政利 (55) <令和3年4月> Ph. D. in Linguistics (米国)
		言語学
兼任	講師	富田 篤子 (41) <令和5年4月> 学士(文学)
		日本語文法学
兼任	講師	後藤 斉 (64) <令和3年4月> 文学修士
		音声学 音声表記・分析学※
兼任	講師	木戸 博 (55) <令和3年4月> 博士(工学)
		音響学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三木 康宏 (50) <令和3年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	千葉 良 (85) <令和3年4月> 医学博士
		小児科学
兼任	講師	菊地 史子 (63) <令和4年4月> 博士(障害科学)
		精神医学
兼任	講師	水尻 強志 (60) <令和4年4月> 学士(医学)
		リハビリテーション医学
兼任	講師	小倉 正樹 (50) <令和4年4月> 博士(医学) 文学修士
		耳鼻咽喉科学
兼任	講師	館 正弘 (63) <令和4年4月> 医学博士
		形成外科学
兼任	講師	朴澤 孝治 (64) <令和3年4月> 医学博士
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態
兼任	講師	真覚 健 (62) <令和3年4月> 文学修士
		臨床心理学 認知・学習心理学
兼任	講師	田島 裕之 (55) <令和4年4月> 文学修士※
		心理測定法※
兼任	講師	小泉 政利 (56) <令和3年4月> Ph. D. in Linguistics (米国)
		言語学
兼任	講師	富田 篤子 (42) <令和5年4月> 学士(文学)
		日本語文法学
兼任	講師	後藤 斉 (65) <令和3年4月> 文学修士
		音声学 音声表記・分析学※
兼任	講師	木戸 博 (56) <令和3年4月> 博士(工学)
		音響学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三木 康宏 (51) <令和3年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	峯岸 直子 (64) <令和4年4月> 医学博士
		小児科学
兼任	講師	菊地 史子 (64) <令和4年4月> 博士(障害科学)
		精神医学
兼任	講師	水尻 強志 (61) <令和4年4月> 学士(医学)
		リハビリテーション医学
兼任	講師	今井 啓道 (54) <令和4年4月> 医学博士
		形成外科学
兼任	講師	朴澤 孝治 (65) <令和3年4月> 医学博士
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態
兼任	講師	真覚 健 (63) <令和3年4月> 文学修士
		臨床心理学 認知・学習心理学
兼任	講師	田島 裕之 (56) <令和4年4月> 文学修士※
		心理測定法※
兼任	講師	小泉 政利 (57) <令和3年4月> Ph. D. in Linguistics (米国)
		言語学
兼任	講師	富田 篤子 (43) <令和5年4月> 学士(文学)
		日本語文法学
兼任	講師	後藤 斉 (66) <令和3年4月> 文学修士
		音声学 音声表記・分析学※
兼任	講師	本田 俊夫 (64) <令和4年4月> 教育学士
		音響学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三木 康宏 (52) <令和3年4月> 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	峯岸 直子 (65) <令和4年4月> 医学博士
		小児科学
兼任	講師	菊地 史子 (65) <令和4年4月> 博士(障害科学)
		精神医学
兼任	講師	水尻 強志 (62) <令和4年4月> 学士(医学)
		リハビリテーション医学
兼任	講師	今井 啓道 (55) <令和4年4月> 医学博士
		形成外科学
兼任	講師	朴澤 孝治 (66) <令和3年4月> 医学博士
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態
兼任	講師	真覚 健 (64) <令和3年4月> 文学修士
		臨床心理学 認知・学習心理学
兼任	講師	田島 裕之 (57) <令和4年4月> 文学修士※
		心理測定法※
兼任	講師	小泉 政利 (58) <令和3年4月> Ph. D. in Linguistics (米国)
		言語学
兼任	講師	青木 智佳子 (52) <令和5年4月> 学士(教育学)
		日本語文法学
兼任	講師	後藤 斉 (67) <令和3年4月> 文学修士
		音声学 音声表記・分析学※
兼任	講師	本田 俊夫 (65) <令和4年4月> 教育学士
		音響学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	矢入 聡 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学)	聴覚心理学※	兼任	講師	矢入 聡 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学)	聴覚心理学※	兼任	講師	矢入 聡 (43) ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学)	聴覚心理学※
兼任	講師	越中 康治 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)	言語発達学	兼任	講師	越中 康治 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)	言語発達学	兼任	講師	越中 康治 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(心理学)	言語発達学
兼任	講師	熊沢 由美 (47) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	社会保障制度・関係法規	兼任	講師	熊沢 由美 (48) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	社会保障制度・関係法規	兼任	講師	熊沢 由美 (49) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	社会保障制度・関係法規
兼任	講師	中村 裕子 (74) ＜令和4年4月＞ 医学博士	言語聴覚障害診断学※ 生命科学の基礎※ 認知症のリハビリテーション※	兼任	講師	中村 裕子 (75) ＜令和4年4月＞ 医学博士	言語聴覚障害診断学※ 生命科学の基礎※ 認知症のリハビリテーション※	兼任	講師	中村 裕子 (76) ＜令和4年4月＞ 医学博士	言語聴覚障害診断学※ 生命科学の基礎※ 認知症のリハビリテーション※
兼任	講師	熊谷 美緒 (37) ＜令和3年4月＞ 学士(保健福祉学)	脳性麻痺・運動発達障害※	兼任	講師	熊谷 美緒 (38) ＜令和3年4月＞ 学士(保健福祉学)	脳性麻痺・運動発達障害※	兼任	講師	熊谷 美緒 (39) ＜令和3年4月＞ 学士(保健福祉学)	脳性麻痺・運動発達障害※
兼任	講師	須賀川 芳夫 (58) ＜令和3年4月＞ 学士(教育学)	学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	兼任	講師	須賀川 芳夫 (59) ＜令和3年4月＞ 学士(教育学)	学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※	兼任	講師	須賀川 芳夫 (60) ＜令和3年4月＞ 学士(教育学)	学習障害・発達障害※ 器質性・機能的構音障害※ 言語聴覚学特別講義Ⅰ※ 言語聴覚学特別講義Ⅱ※
兼任	講師	寺本 淳志 (39) ＜令和4年4月＞ 修士(心身障害学)※	拡大・代替コミュニケーション※	兼任	講師	寺本 淳志 (40) ＜令和4年4月＞ 修士(心身障害学)※	拡大・代替コミュニケーション※	兼任	講師	寺本 淳志 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(心身障害学)※	拡大・代替コミュニケーション※
兼任	講師	藤島 省太 (64) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)	吃音概論	兼任	講師	藤島 省太 (65) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)	吃音概論	兼任	講師	藤島 省太 (66) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)	吃音概論
兼任	講師	坂本 幸 (80) ＜令和3年4月＞ Master of Arts Deaf Major (米国)	成人・小児の聴覚障害※ 聴能・発語訓練演習※	兼任	講師	坂本 幸 (81) ＜令和3年4月＞ Master of Arts Deaf Major (米国)	成人・小児の聴覚障害※ 聴能・発語訓練演習※	兼任	講師	坂本 幸 (82) ＜令和3年4月＞ Master of Arts Deaf Major (米国)	成人・小児の聴覚障害※ 聴能・発語訓練演習※
兼任	講師	菅井 裕行 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	視覚聴覚二重障害・重複障害	兼任	講師	菅井 裕行 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	視覚聴覚二重障害・重複障害	兼任	講師	三科 聡子 (57) ＜令和4年4月＞ 文学修士	視覚聴覚二重障害・重複障害
兼任	講師	松谷 幸子 (68) ＜令和4年4月＞ 医学博士	補聴器・人工内耳※	兼任	講師	松谷 幸子 (69) ＜令和4年4月＞ 医学博士	補聴器・人工内耳※	兼任	講師	松谷 幸子 (70) ＜令和4年4月＞ 医学博士	耳鼻咽喉科学 補聴器・人工内耳※
兼任	講師	佐々木 仁 (44) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒	保険診療・介護保険制度※	兼任	講師	佐々木 仁 (45) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒	保険診療・介護保険制度※	兼任	講師	佐々木 仁 (46) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒	保険診療・介護保険制度※
兼任	講師	山本 はづき (29) ＜令和5年4月＞ 学士(心理学)	視覚言語論	兼任	講師	山本 はづき (30) ＜令和5年4月＞ 学士(心理学)	視覚言語論	兼任	講師	山本 はづき (31) ＜令和5年4月＞ 学士(心理学)	視覚言語論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を入力してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、兼任、兼任の順)に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・より教育効果を高めるため、吉沢康太講師（兼任）から徳田幸雄講師（兼任）及び丸藤准二講師（兼任）のオムニバスに変更
- ・小野寺修講師（兼任）から吉田理講師（兼任）に変更

【令和4年度】

- ・SMITH ANTHONY FREDERICK ARTHUR教授（兼任）から近江貞子講師（兼任）に変更
- ・杉崎新一講師（兼任）から佐々順子講師（兼任）に変更
- ・千葉良講師（兼任）から峯岸直子講師（兼任）に変更
- ・小倉正樹講師（兼任）から松谷幸子講師（兼任）に変更
- ・館正弘講師（兼任）から今井啓道講師（兼任）に変更
- ・より教育効果を高めるため、木戸博講師（兼任）から本田俊夫講師（兼任）及び矢入聡講師（兼任）のオムニバスに変更
- ・菅井裕行講師（兼任）から三科聡子講師（兼任）に変更

【令和5年度】

- ・「健康スポーツ学Ⅱ」を櫻庭ゆかり教授（専任）、中曽根裕講師（兼任）のオムニバスから、櫻庭ゆかり教授（専任）の単独に変更
- ・江畑綾助教（専任）が今年度産休・育休により、「英文抄読」以外の全科目を中川大介講師（専任）が担当
- ・鈴木一樹の職位を、講師（兼任）から教授（兼任）に変更
- ・JONES DOMINIC MICHAEL DONALD教授（兼任）から相田明子講師（兼任）に変更
- ・山口志津枝准教授（兼任）から、高橋慧助教（兼任）に変更
- ・江畑綾助教（専任）が今年度産休・育休により、「英文抄読」の担当を近江貞子講師（兼任）に変更
- ・冨田篤子講師（兼任）から、青木智佳子講師（兼任）に変更

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	2
6	
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
2	0	1	3	6	0	2	0	2	3	7	0
(2)	(0)	(1)	(2)	(5)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
2	0	2	3	7	0	2	0	2	3	7	0
[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
助教以上 65 助手 60	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{6} = \boxed{116.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{7} = \boxed{14.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{6} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

7 その他全般的事項

<言語聴覚学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
施設 ①学生ロッカー室 31.76㎡ ②運動系実習室 114.90㎡	対面授業に備え、運動系実習室の換気機能を強化するため、学生ロッカー室及び運動系実習室の配置を入れ替え、またそれに伴い面積を変更（学生ロッカー室には必要なスペースを確保した上で運動系実習室を拡張） ①学生ロッカー室 25.08㎡ ②運動系実習室 121.58㎡ （言語聴覚士学校としての校舎の各室の用途及び面積の変更について、令和3年1月18日付にて、文部科学大臣承認）
施設 ①402演習室（他学科専用） ②406講義室（他学科専用） ③407講義室（他学科専用）	言語聴覚学科が使用するキャンパスから、1学科が新校舎へ移動するため、他学科専用として届出していた演習室及び講義室を、言語聴覚学科を含めた全4学科の共用とし、教育環境の充実を図る（面積の変更はなし）。 （言語聴覚士学校としての校舎の各室の用途及び面積の変更について、令和5年3月24日付にて、文部科学大臣へ変更承認申請書を提出中）

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 全学委員会の1つとしてFD・SD委員会を設置し、運営している。 【添付資料】仙台青葉学院短期大学 FD・SD委員会規程</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和4年度は、FD・SD委員会を全13回開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各回オンライン（一部回はメール審議）での開催となった。 参加状況については、授業・実習によるやむを得ない理由での欠席があった以外は、おおむね全回、全員が出席した。 今年度も4月から、新たに救急救命学科教員も加入した新体制で委員会を開催し、授業評価アンケートの活用制度等について検討を行っている状況である。</p> <p>c 委員会の審議事項等 仙台青葉学院短期大学 FD・SD委員会規程 第6条 (1) FD・SD全体企画及び実施計画の立案、実施に関する事項 (2) FD・SD活動に関する評価に関する事項 (3) FD・SDに係る情報収集及び提供に関する事項 (4) FD・SD活動に関する制作物の刊行に関する事項 (5) 学生授業評価アンケートに関する事項 (6) その他FD・SD活動に関する事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・全学FD・SD研修会の開催 ・言語聴覚学科FD研修会の開催</p>
--

b 実施方法

・ 全学FD・SD、学科FD研修会

全学を対象とした研修会へ積極的に参加するとともに、学科の特性を踏まえた学科FD研修会を企画、実施した。今年度も全学のFD・SD研修会へ参加する他、学科独自のFD活動についても引き続き実施していく。
なお、全学については、Zoomの活用とオンデマンドによる受講も可能であったため、柔軟に対応することができた。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・ 全学FD・SD研修会（FD・SD委員会以外の委員会開催分を含む。）

①FD・SD委員会主催 令和4年度 第1回全学FD研修会

「遠隔授業に対する学生の“思い”の可視化～計量テキスト分析による授業改善アンケートの活用～」
(令和4年6月27日～9月/オンデマンド/教職員102名参加)

②FD・SD委員会主催 令和4年度 第1回全学SD研修会・IR研修会

「データから考える中退を防ぐ方法」
(令和4年6月29日開催/対面・オンデマンド/教職員124名参加)

③ハラスメント委員会主催 令和4年度 ハラスメント研修会

「事例から考えるハラスメント防止につながる対応」
(令和4年11月11日開催/Zoom・オンデマンド/教職員52名参加)

④教務委員会及びFD・SD委員会主催 シラバス作成に関するFD（全学科）

「令和5年度担当科目のシラバス作成にあたり、シラバス作成要領及びシラバス作成要領の変更点について確認」
(令和4年12月/オンデマンド/教員96名参加)

⑤研究推進・紀要委員会主催 令和4年度 学内研究発表会

「過敏性腸症候群と運動機能」・「コロナ禍における授業形式の変化と学生意識への影響」
(令和5年1月31日開催/Zoom・オンデマンド/教職員93名参加)

⑥研究推進・紀要委員会主催 令和4年度 研究推進・紀要委員会 研修会

「研究デザインの基礎・仮説の設定と統計の解釈について」
(令和5年3月6日開催/対面・オンデマンド/教職員72名参加)

・ 学科FD研修会

①音声障害症例検討会

(令和4年5月10日開催/対面/言語聴覚学科 全専任教員参加)

②国家試験対策に向けて

(令和5年3月14日開催/対面/言語聴覚学科 全専任教員参加)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

コロナ禍における対面授業と遠隔授業の併用について、学生がどのように受け止めているのか、また遠隔授業に何を求めているのか等、客観的なデータにより実効的な情報を得ることができた。

また、学科FD研修会では、学科の特性を踏まえたテーマで企画し実施した。

学科会議等の場を通じて、学生の現状を把握すると共に、教員間での最新知見の共有を図り、授業改善に向けての積極的な情報交換等を行いながら、日々教育力向上に取組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

原則として、各授業科目の最終日に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・ 授業評価アンケート結果は冊子にまとめ、各キャンパスの図書館・事務室（非常勤講師控室）及び各学科長室等に備え置き、学生及び教員に公開する。

・ 科目担当教員に対しては、担当科目分の集計データ及び自由記述をまとめた集計結果をフィードバックする。科目担当教員はその結果を踏まえ、授業への取り組みを見直し、改善報告を提出する。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>別紙のとおり</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>令和4年度自己点検・評価報告書は、令和5年6月末公表予定</p> <p>b 公表方法</p> <p>本学ホームページ上に公表予定（令和5年6月末を予定）</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p><small>（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）</small></p> <p>評価機関（一般財団法人大学・短期大学基準協会）による認証評価を受審。</p> <p>評価の結果、適格と認定された。次回は令和11年を予定している。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

(別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的の達成状況について

1. 教育課程編成及び教員組織について

令和5年度末で完成年度を迎えるが、学科設置3年目についても、設置計画どおりの教育課程を編成し、また未開講・廃止科目もなく順調に運営している。令和6年度に向けては、学生の到達状況や教育効果を踏まえた教育課程の見直しを検討している。

また、教員組織については、今年の4月から産休・育休を取得している専任教員（助教）が1名いるが、本学での非常勤講師や実習指導者としての経験を含め、臨床経験豊富な専任教員（講師）1名を新たに採用し、設置計画どおりの学科運営に努めている。

2. 教育方法について

今年度も入学者に対するオリエンテーションでは、学生便覧、シラバスを基に、学生生活全般、また教育課程の体系、各授業科目の学修成果、履修に係ることについての説明を入念に行った。

また、履修に関して、特にGPAについては制度概要等を説明し、今後様々な活用方法が考えられることから、計画的に学修するよう指導した。

今年度は、対面での授業が主となるが、学生が受けたコロナ禍による影響にも十分配慮の上、より一層学生の履修状況等に注視し、入念な学生指導に努めていきたい。

更に、引き続き、学生生活に関わる事項のうち、心の健康については臨床心理士等が、就職や進学支援等については学生総合支援センターの専任職員が中心となり、学生の現状に合わせた必要な支援を行っていく。

3. 入学者の状況について

2023年度入学試験において、入学定員40名に対して入学者は49名となり、入学定員を充足することができた。

18歳人口の減少が一層加速している状況を踏まえ、今後も、学内の関係部署との連携を密にし、本学科のアドミッション・ポリシーに見合った入学者の安定した確保及び定員の適正管理に努めていきたい。